

U.S. Indicators

米国 雇用は堅調さを維持、利上げ実施へ(16年8月雇用統計)

発表日:2016年9月2日(金)

～15.1万人増は堅調なペースであるうえ悪天候を考慮すればさらに良好～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

米国雇用動向 (The Employment Situation)

		失業率	非農業部門雇用者数						時間当たり賃金		労働時間	労働投入量		
			前月差	製造業		サービス関連業		前月比	前年比	前月比		年率※		
				前月差	前月差	前月差	前月差							
四半期	15.1Q	5.5	190	8	23	171	29	109	5	0.8	2.2	33.8	0.6	2.5
	15.2Q	5.4	251	2	18	243	25	181	10	0.6	2.2	33.6	0.3	1.3
	15.3Q	5.1	192	▲5	8	199	14	146	15	0.6	2.3	33.7	0.7	2.7
	15.4Q	5.0	282	4	49	239	27	183	1	0.6	2.5	33.7	0.4	1.7
	16.1Q	4.9	196	▲9	23	197	54	114	14	0.6	2.4	33.7	0.4	1.7
	16.2Q	4.9	146	▲1	▲10	167	7	120	18	0.7	2.5	33.6	0.2	0.8
月次	1511	5.0	280	3	65	227	52	132	1	0.2	2.4	33.7	0.2	1.2
	1512	5.0	271	6	48	227	7	180	12	▲0.0	2.6	33.8	0.3	1.7
	1601	4.9	168	18	18	144	67	55	13	0.5	2.5	33.7	0.4	2.6
	1602	4.9	233	▲16	13	253	52	178	11	0.0	2.4	33.7	▲0.4	2.6
	1603	5.0	186	▲29	37	193	42	109	19	0.2	2.3	33.6	0.1	1.7
	1604	5.0	144	5	▲6	156	▲2	122	▲3	0.3	2.5	33.6	0.2	0.4
	1605	4.7	24	▲17	▲18	69	0	32	25	0.2	2.5	33.6	0.0	0.4
	1606	4.9	271	8	▲6	276	22	207	33	0.1	2.6	33.6	0.2	0.8
	1607	4.9	275	6	11	264	11	167	50	0.3	2.7	33.7	0.2	1.4
	1608	4.9	151	▲14	▲6	175	15	101	25	0.1	2.4	33.6	▲0.2	1.3

非農業部門雇用者数は前月差+151千人と鈍化も堅調な伸び

16年8月の非農業部門雇用者数(季節調整済み、事業所調査)は、前月差+151千人(前月同+275千人)と鈍化し、市場予想中央値の前月差+180千人(筆者予想同+218千人)を下回ったうえ、6、7月合計で▲1千人下方改定された。政府部門が鈍化したほか、民間部門の雇用者数が前月差+126千人(前月同+225千人)と減速した。もっとも、非農業部門雇用者数の前月差+151千人という増加ペースは雇用の堅調さを示していることに加えて、8月は悪天候の影響を受け建設業などが下振れており雇用情勢の実態はヘッドラインの数字よりも良好といえる。

雇用の基調は成長の長期化に伴い緩やかに鈍化しているが堅調さを維持

単月で振れの大きい雇用者数の基調をみると、3ヵ月移動平均(6、7、8月)で非農業部門雇用者数が前月差+232千人(前月同+190千人)、民間部門雇用者数が同+196千人(前月同+154千人)と加速した。ドル高、新興国経済減速、原油価格下落等の影響が残る中で、ストなど一時的な要因の剥落や国内需要の堅調さを背景に雇用の増加ペースは加速した。より一時的な変動の影響を排除できる6ヵ月移動平均の非農業部門雇用者数(16年3月-16年8月)は前月差+175千人(前月同+189千人)と完全雇用に近づくなかで、以前より鈍化しているものの堅調さを保っていると判断される。

9月利上げの可能性は高い

予想を下振れた雇用統計を受けて、FF先物が示す9月の利上げの確率は32%、12月が60%にとどまっているが、雇用の実態はヘッドラインの数字が示すよりも良好であるうえ、FOMCの主要メンバーが重視している移動平均で雇用の増加ペースが加

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

速し堅調さを維持していることから、9月20、21日のFOMCで利上げが実施される可能性は一段と高まった。

小売業、金融・保険等が加速も製造業、建設業が減少に転じた

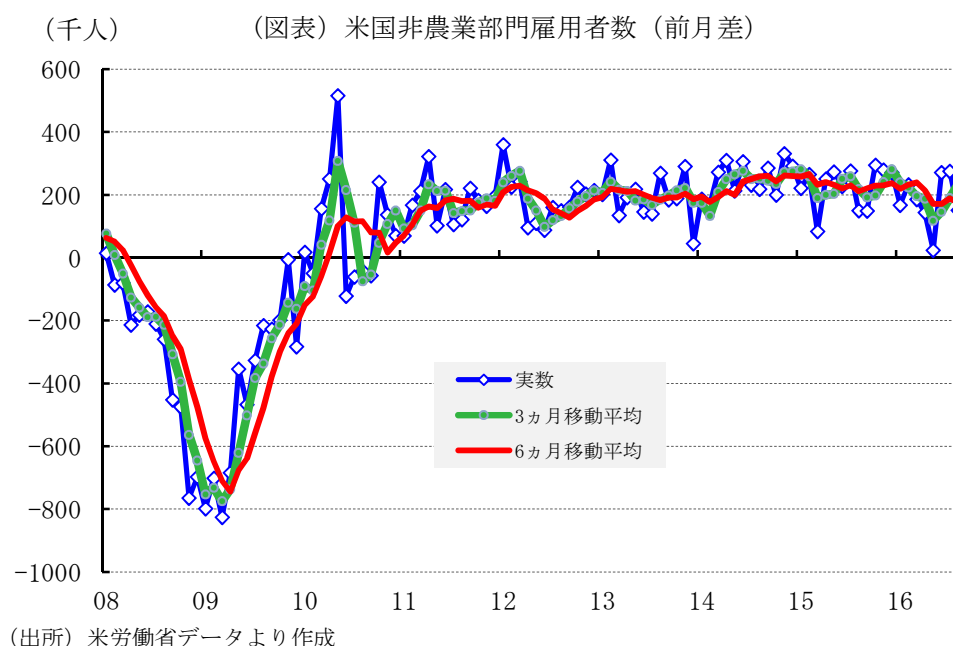
8月の民間部門の業種別の動向をみると、小売業、金融・保険、社会扶助サービス業、飲食サービス、会員制クラブなどを含むその他サービスなどが加速したほか、情報、教育サービスが増加に転じた。また、トラック輸送の増加等で運輸・倉庫業、専門・技術サービス、ヘルスケア関連は小幅鈍化にとどまり堅調さを維持した。一方で、ドル高の影響を受けている製造業や、製造業の影響を受け易い派遣業、悪天候の影響を受けた建設業、宿泊施設が減少に転じたほか、不動産・賃貸・リース、芸術・娯楽・レクリエーションが鈍化した。製造業では、食品等の拡大により非耐久財が増加したが、輸送機器等の縮小で耐久財が減少に転じた。また、石油・ガス掘削の低迷を背景に鉱業は大幅な減少を続けた

賃金の緩やかな伸びが継続

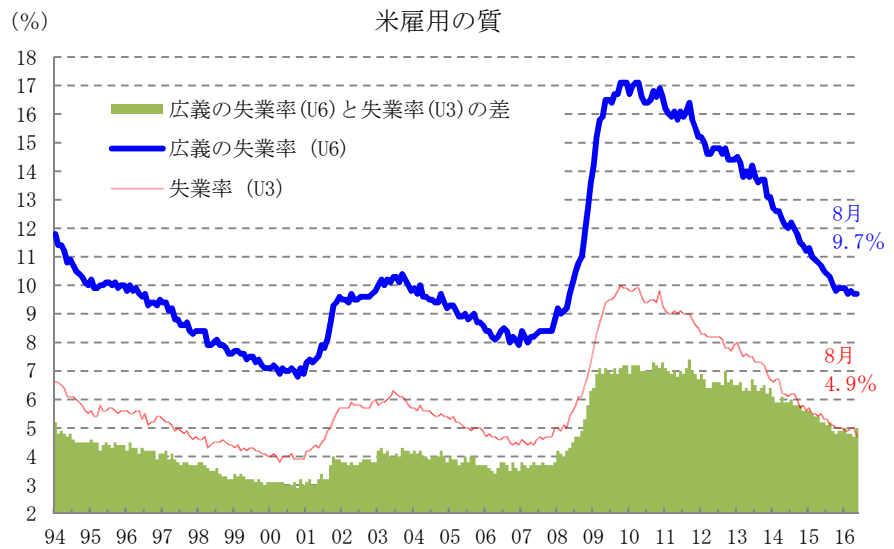
平均時給は、前月比で+0.1%（前月+0.3%）と減速し、前年比でも+2.40%と上方修正された前月の+2.70%から鈍化した（市場予想中央値+2.5%、筆者予想+2.5%）。過去と比較して広義の失業率が引き続き高い水準にとどまっているほか、参加率・就業率の水準が低いなど、質の面で依然改善余地が残されており、雇用情勢は失業率（U3）が前回4.9%だったときほど健全ではないと判断される。このため、賃金上昇率は抑えられており、FRBの期待ほど加速していないものの、労働需給の改善を背景に賃金の上昇ペースは徐々に高まっている。

8月の実質個人消費は小幅増に鈍化する見込み

8月には、賃金が前月比+0.1%と鈍化したうえ、労働投入量が前月比▲0.2%（前月+0.2%）と失速したことから、給与所得は前月比で減少するとみられる。しかし、消費者マインドが大幅に改善しており、消費性向の上昇によって、8月の実質個人消費は小幅拡大すると予想される。



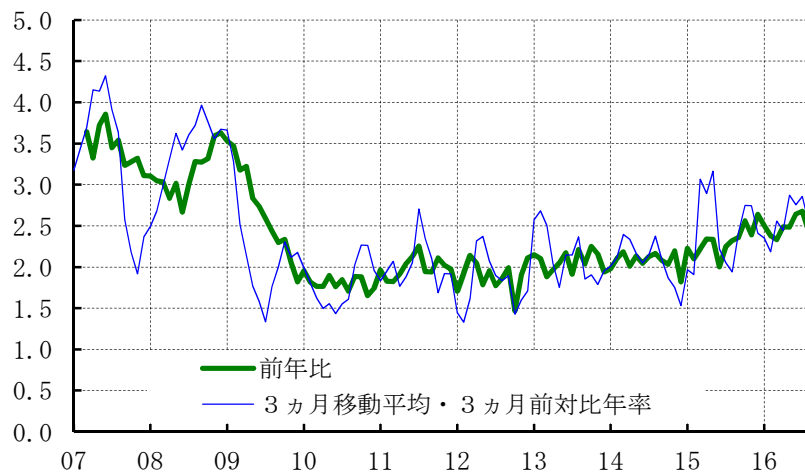
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



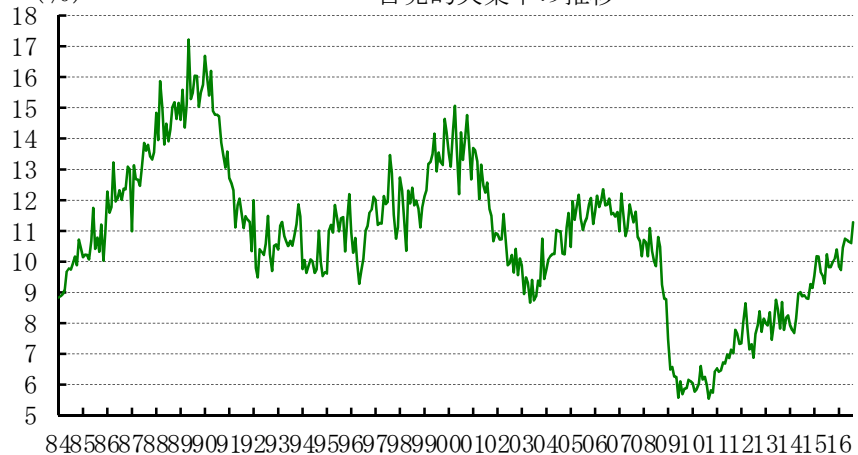
(出所) 米労働省

(注) U6：通常の失業者に加えて、正規雇用を探しているがパートタイムで働いている人や過去1年間に求職活動を行った人を失業者としてカウント

(%) (資料) 時間当たり賃金の推移



(%) 自発的失業率の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。